



發行編輯人 川崎文治
 印刷所 常磐每日新聞社
 福島縣石城郡平町長橋町五番地

定部金試錢廣(五張十二) 休日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町十一
 郵税五厘 料(五十錢) 日(祝日) 印刷所 本社専屬 陽社

刊夕日六廿月九

社説
 淺薄なる研究(四)
 川崎文治
 更らに本論を進めねばならぬが、なほ且つ意見書には奇々妙々とも云ふべき左の一項を見出す事が出来る
 大瀧江筋は流水一三個と稱せられて居ります其内平水道が二、三個を使用し下流に對しては、五九を流下する契約がありますので現在以上の水量を平水道が採る事は現狀に於ては不可能の事であり、依つて大瀧江筋より一、三個以上を採る爲めには堰堤並に水路の大改修を行はなければなりません

平町の水道は大瀧江筋の十三個中から、引水するので
 はなく、好間川本流から一三個を取水する爲めに大瀧江筋を使用するものである
 研究會同人の頭には此處の點がハッキリと飲み込めて居ないらしい、だから論點が曖昧模糊を極めて不徹底のそりを免れぬ事となる
 而して現在以上の水量を採る事が不可能だと斷言して居るが是れは杞憂も甚しい如何となれば、現在に於ては夫れ以上の水を採るの必要が毛頭ないからである、假りに現在より以上に一個乃至二個の水量を取水せんには現在の堰堤及び水路に依つて充分に果し得るからである、のみならず先般町

當局が計劃し町會は滿場一致を以て可決した擴張工事が完成せる曉には既往十年の人口増加の平均率に據つて續々と人口が増加するとしても、一人六斗一升六合宛を給水し尚ほ且つ大正某年迄は豊富に給水する可能性を有して居るのである故に決して大なる修理工事を必要としない況はんや研究會が「然かも彼の地形は斷崖絶壁で崩壊し易き地質でありますから工事の困難なる事豫想以上であります」等のお爲ゴカシな御心配は御無用であつて是れ全く屁理屈より編み出された取越苦勞と申すべきである(續)

一册の代金で御希望通りな五册の雑誌が自由に読める
 平町長橋町三五
 川崎回文庫
 (申込次第規則書進呈)

是非
 粹で上品な履物を御求めの際は
 平町三丁目 電話一五六番
 三井履物店

常磐文藝
 戀しい同志 K 生
 宵のみ空に星二人
 何やら囁き合つてます
 草の下ではこぼろぎが
 何のためにかさつきから
 悲しい聲をばりあげて
 空を見つめて泣いてゐる
 泣くのはおよしこほろぎよ
 お前ばかりが悲しかないの
 私もやつぱり淋しいの
 空の二人も下から見れば
 楽しいやうには見えるけど
 やつぱり二人で泣いてるの
 いとしいひとに別れても
 二人が遠くはなれても
 山と山との細道にや
 清い野菊が咲いてます
 (九、二四)

山古印醬油
 味長 美味 經濟
 元造 鹽屋本店
 電話二七番

洋食は向上軒
 平停車場新道通り
 電話五二三番

大々勉強仕
 命ノホト願マヌ
 迅速ニ配達致シマス
 (コンクリート用)
 砂利及砂
 中山岩採掘販賣
 此レニ附隨スル
 土工請負業

建築ペンキ塗
 美術諸看板
 硝子金銀文字
 其他各種
 平町四丁目
 大音堂

TRADE MARK
 NIPPON OPHONE
 レコード
(定價表).....
(以上一板毎に景品呈上)
 ツバメ印レコード
 會社と海岸線一手
 特約店として向ふ
 二ヶ年間同印兩面
 レコード一板一圓
 宛で差上ります
 (毎月新譜取揃有)
 平一丁目電話三三九番
 常盤屋時計店

ナリミルク
 子様方は正直です
 メリーミルクが大好き
 申されまます
 元造製
 内の丸京東
 社會子葉京東
 一店約特
 目丁四町平
 ヤトモツマ

入院隨意
 皮膚科 小兒科 内科
 花柳病科
 平町城山(舊城跡)三の丸
 青沼醫院
 醫學士青沼淡夫
 電話四〇三番

株式賣買中値
 電話に金融致し

磐城銀行	五〇、〇	五三、五
平銀行	五〇、〇	六八、〇
磐越銀行	一一、五	一〇、五
磐城實業	五〇、〇	四〇、〇
田村實業	一一、五	一一、五
四倉銀行	一七、五	一七、五
農工銀行	二〇、〇	二四、五
同新	一五、〇	一八、八
百七銀行	五〇、〇	五五、〇
同新	一一、五	一六、〇
七七銀行	一一、五	九、八
郡山電氣	五〇、〇	三七、五
同新	二五、〇	一七、五
只見川電	一一、五	七、〇
植田水電	一一、五	一五、五
好間水電	一一、五	一三、〇
磐城製物	一一、五	五、〇
磐城製菓	二〇、〇	四、〇
平信託	五〇、〇	二五、〇
磐城勸業	一一、五	一三、五
植田物産	三〇、〇	二六、〇
平製水	二五、〇	二〇、〇
好間軌道	五〇、〇	三〇、〇
入山新	三三、五	一七、〇
小田炭礦	二五、〇	五、〇
磐城炭礦	五〇、〇	四一、〇
同新	二二、五	一八、〇
磐城セメン	五〇、〇	六四、五
同新	三三、〇	四三、五
平運送	一一、五	八、〇

平町田町 電話三三三番
 丸登株式会社
 川添房二郎

萩原氏に對して 本社長が直談判開始

立會演説に關して

文書の交換手ぬるし

川崎本社長から申込んだ立會演説に對し平上水道研究会代表者萩原義雄氏からの正式回答は昨日第二便を以つて本社に郵送されたが夫れに依ると『反對同盟會對研究會の』

懇談會

の形式に依り相互に隔意なき意見の交換をなし研究會の意見に誤謬あらば改訂に各ならざるを以つて是れに依り立會演説を中止する事にしたいとの事有且つ回答書と同時に配達された『熱烈なる愛町者の 老人』と稱する匿名家の投書に依れば

收監

れた平電氣會社の提灯持を爲すは穩當と認め難きを以つて到底黙過すべきに非らざる爲め川崎本社長は本日立會人とし高木社員を隨へ立會演説に關し萩原氏の眞意を叩かんと直接に膝詰談判を開始した

本年の米作實收豫想

昨年より千石以上増收

石城郡内に於ける第一回米作豫想に依れば作況は灌漑水に差支へなき處は頗る良好にして増收の見込充分なれども旱害水害を受けた箇所も又少くなく作付段別九千四十七町一反にして豫想收獲高は十五萬四千四百八十一石であるが前年收獲高の十五萬三千四百六十二石

益々擴大す

平電氣事件
他にも一名收監

中電氣會社事務野崎滿藏外

常磐片々

突然四名の收監者を見たる
昨夜天地に四つの異變あり
豪雨あつて雷鳴轟き、雹降つて地盤揺ぐ
天帝に明あり、正義は強し
蓋し平町民たるもの安堵して可なり

神谷龜裂陳情

石城郡神谷村遠山地内龜裂陥没に關する陳情の爲め長村長

三名の收監は昨記の如くであつて事件の内容は豫審に屬する爲め報導の自由を有しないが右收監者以外に〇〇〇〇に對しても拘引狀執行され所在判明次第收監する由

磐城炭礦の 重役會議結果

鑛毒を認めた

既報の如く石城郡内郷村の鑛毒被害田に對して是れが賠償問題に就いて紛擾を重

支那の動亂が 常磐炭礦に好影響

支那炭が輸送不能に陥り
日本炭の需用旺盛

支那の動亂は貿易關係其他に多大の打撃を與へたが殊に撫順炭及び日本炭に對する反對の立場にある支那開平及び濟州地方の石炭は奉天直轄開始と共に輸送困難に陥り従つて積出地たる秦皇島は積出不能となつた爲め延て日本炭の需要旺盛となりお蔭を蒙つた常磐地方の各炭礦も己づから好影響を受けて活氣を呈する事であらうと



毛糸の使い方

追々毛糸が活用になります
が、普通家庭用として用ひられてゐるのは和製の綿毛糸スコッチドイツイ製英國製のミネルバーヤンフライシ

奸手段に乗る

石城の養蠶家
豫約賣買の弊あり

石城郡に於ける養蠶家にして夏秋蠶の實收額を見ざる間に仲買人の奸手段に乗せられ豫約賣買を爲す者近來多きを加へるに至つたが右は歪糸業法に據つて嚴禁されて居る行爲である爲め此

多いハゲ山

植林獎勵困難

石城郡の民有山林は總計五十三萬一千二百廿餘町でその半分はハゲ山が多く二割は雑木、一割は松、二割は杉と云ふ植林であつて郡では大いに植林の必要を認め獎勵に努めて居るが何しろハゲ山といふのは炭礦地方や山間部部の交通不能な山奥に多いので植林經營上非常な困難不使の多い事やまたは眼前の利益に追はれる者が多いので意の如く實行されぬといふ

選挙違反上告

本年總選挙の際星一氏の爲めに運動した仲里辯護士、新田目警炭社員、小林星製藥社員三名に係る選挙違反事件は曩に平區裁判所に於て罰金五十圓乃至百圓の言渡りあつたに對し福島地方裁判所に控訴中の處第一審通り言渡りあつた爲め更に大審院に上告手續中の處第一回上告審は十一月十日開廷の事に決定した

少年庭球

合
少年庭球大會は來月十二日午前九時から平商コートにて華々しく開催されると

入營兵決定

其人々の氏名

石城郡に於て本年度徵兵検査の結果現役兵として入營すべきは歩兵第二十九聯隊百十八名、近衛歩兵十六名、騎兵第二聯隊六名、第八師團騎兵十一名、近衛騎兵一名、野砲兵十八名、近衛砲兵三名、獨立山砲兵、十一名、臺灣山砲兵六名、工兵第二大隊十名、近衛工兵三

讀物

お伽話は依然として優勢で、アラビヤナイト、西遊記、インツプ等と云ふものが盛んに讀まれ小波さんのものも非常な勢を示して居ます、概してお伽話類は架空的な想像的な翻譯反響を悦んで讀んで居ます、そこへ行く

女の子

はよく日本在來のお話を讀んで居り觀音様だの、お地藏様だの靈驗と云ふことを味讀して

發明界

自然界の話
叢書、科學遊戯と自作玩具の作り方等の類であります
(清光堂書店談)

名、鐵道十名、電信九名、第三師團飛行三名、航空學校二名、輜重兵六名、近衛輜重兵一名、看護卒五名、横須賀海兵團十三名、横須賀鎮守府五名と決定したが其内平町よりの入營者は左記の如くである
(歩兵第二十九聯隊)鈴木繁雄、佐藤泰吉、眞田友春、林一、藤澤正夫、川上金六、鈴木傳吾
(近衛歩兵第三聯隊)青天目源一郎、田巻悦次
(野砲兵第二聯隊)山本勝次郎、(近衛野砲兵)和賀幸三郎、(臺灣山砲兵)作山亥之助、(工兵)松本春次、(鐵道兵)畑中繁太郎、山澤健三、(電信隊)酒井榮太郎、(横須賀海兵團)渡邊孝一、(同鎮守府)柏原光太郎